

# 和紙の糸で高級ジーンズやバッグ

## 備後撚糸 自社ブランドで飛躍目指す

撚糸業地場大手の備後撚糸(株)(福山市芦田町福田872、光成 猛社長、電084・958・3355)が、和紙製の糸を使った織物の開発に成功。すでに東京のジーンズメーカーが採用したほか、京都のデザイナーとタイアップして自社ブランドでバッグやマフラーなどの商品展開を目指す。

### 「水撚り製法」で特許

同社では綿糸に比べて、軽く、吸湿性、放湿性、保温性、染色性などに優れ、風合いもよい「紙の糸」に着目、同業の

川崎撚糸(株)(福山市神辺町川北947、川崎信明社長、電084・963・1464)と共同で7年前から開発に着手、07年5月に特許を取得した。

特許技術の「和紙水撚り製法」は、細くスリットした和紙に水を含ませて撚りをかけて糸にする製法で、撚り工程での水分蒸発防止に工夫を凝らしたのが特徴。この手法により、デニムや帆布などに使われる太い糸からシャツ地などの細い糸まで、均一な丸断面を持つ糸を完成させた。風合いの良い丸断面と、綿糸と同等の強度を出すための撚り回数選定には、県立東部工業技術センターが全面的に協力、数百水準の試験を繰り返した。

### デザイナーも熱い視線

糸の開発に合わせて、06年には中国経済産業局の連携支援事業の指定を受け、帝国データバンク福山支社が窓口となつて「和紙糸製デニム生地」を採用してくれるジーンズメーカーのマーケティングを行う一方、カイハラ(株)(福山市新市町常1450、貝原潤司社長、電0847・57・81

11)や和紙メーカーの王子製紙などとチームを組み、デニム生地の試作を繰り返して商品化に漕ぎつけた。07年夏から東京の個性派ジーンズの「ONIGASHIMA」が採用、糸の芯まで染まりやすいという特徴を生かして、鮮やかなブルージーンズで展開している。価格は4万円中心だが、売れ行きは好調という。さらに、東京で開かれた繊維の総合展示会「06年ジャパングリエーション」で、京都を中心に活躍しているテキスタイルデザイナーの塩谷栄一さんが和紙布に着目して、バッグでの商品化を備後撚糸に提案。これを受けて、同社も

自社ブランド戦略へ乗り出した。現在試作したバッグは約30点。塩谷さんが友禅の手法で一点づつ手描きして、和装にも映える「光」シリーズと、発色性を生かしたお洒落な「B8N Light」がある。「光」は3万円〜10万円となるが、後者は6千円〜7千円と手ごろな価格帯に設定。同社では、このバッグを1月23日〜25日、東京ビッグサイトで開催される「インターナショナルファッションフェア」に出展、光成社長は「初の自社ブランドで飛躍への起爆剤にしたい」と意気込んでいる。

